

ミニパンフレット「ツタヤ図書館」の「いま」 —公立図書館の基本ってなんだ?—の発行

船橋佳子

(図書館友の会全国連絡会事務局長)

図書館友の会全国連絡会(図友連)は、公立図書館が「地域の知の拠点」として発展することを願い、図書館づくり、図書館の応援団として全国各地で活動する市民団体・個人で構成する全国連絡組織です。この度、標記のミニパンフレットを発行しました。

このミニパンフレットの趣旨について述べます。佐賀県武雄市図書館は、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社(CCC)を指定管理者として、二〇一三年四月にリニューアルオープンしました。にぎわい創出・カフェのある図書館としてマスコミに大きく取り上げられました。併設の歴史資料館・蘭学館がTSUTAYAのレンタルビデオコーナーとなり、貴重な郷土資料が散逸、廃棄されました。また、Tカードが図書館カードと併用されました。二〇一五年

八月には、不適切な図書が大量に含まれていたことが明らかになり、マスコミに大きく報道され、二〇一五年一〇月にリニューアルオープンした神奈川県海老名市立図書館にも飛び火しました。その後、愛知県小牧市、宮城県多賀城市、山口県周南市など全国にもいわゆる「ツタヤ図書館」問題が広がりました。「ツタヤ図書館」については賛否両論がありますが、図書館としてのあり方の論議を超え、地方自治そのものが問われるまでになりました。また、「ツタヤ図書館」問題は、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどに数多く取り上げられ、これまで「図書館」に関心のなかった人たちがその実状を知ることになり、「図書館」について考えるきっかけとなりました。このミニパンフレットでは、「ツタヤ図書館」がなぜこれほどまでに騒がれるのか、こ

の問題を理解する糸口を掴んでもらうことを目的として、これまでの経緯と現状について、簡単に分かりやすく書いていきます。

内容は、「ツタヤ図書館」の誕生、武雄市図書館と海老名市立中央図書館の図書購入について、CCCの「ライフスタイル分類」の問題点、「ツタヤ図書館」のその他の問題点、他市の「ツタヤ図書館」構想、「ツタヤ図書館」に対する行政の対応、「ツタヤ図書館」と学校図書館支援事業、最後に「図書館とは何か?もう一度考えよう」となっています。

このミニパンフレットを一人でも多くの方たちに手に取っていただき、読んでいただくことによって、望ましい図書館の役割についてや、自分たちがほしいと願う図書館について考えるきっかけとなつてほしいと願っています。

ミニパンフレットは、図書館友の会全国連絡会ホームページよりダウンロードして、学習会やロビー活動などに広くご活用ください。

<http://totomoren.net/katudo.html#tsutayalib>